

2022 年度東京成徳大学・大学院 卒業式学位記授与式 学長告辞

卒業生・修了生の皆さん。

皆さんは、本学において、それぞれの課程を無事に修了し、晴れてこの日を迎えられました。予想もしなかった「新型コロナ禍」という時期だけに、感慨はひとしおだと思います。「コロナ」の期間は、勉学だけではなく日常生活の全てが制限されました。しかし皆さんは、この大変な時期を乗り越え、今日という日を迎えられたわけです。

皆さん、ご卒業おめでとう。心より敬意をこめてお祝いの言葉を申し上げます。

保護者の皆様におかれましても、たくましく成長した姿に感無量のことと存じます。本学に対するご支援に感謝するとともに、心よりお祝いを申し上げます。

また、ご来賓の皆様には、ご臨席を賜り心より感謝申し上げます。

思い返してみると、本学に入学して 1 年目の終わろうとしている頃、大学生活にも慣れてこれからという時期に、突然「新型コロナパンデミック」が起きました。授業はオンラインになり友人や先生との交流も大きく制限されました。部活動やサークル活動の禁止、図書館の休館。大学生活の大切な部分は機能停止になりました。(国際学部では)外国に留学して半年、ようやく留学先での生活に慣れたころ、帰国せざるを得なかった諸君もさぞかし残念な思いだったでしょう。しかし、コロナ禍の不安と緊張にみちた時期を乗り切って、いまここに諸君はいます。「大変だったね。よく頑張ったね。」という感謝の思いとともに、(心折れることなく)辛抱強く勉学を続けた君たちを私は誇りに思っています。

世界は今大きく変化しています。現在のように、変化の激しい社会では、未来に何があるか、誰にもわかりません。「新型コロナ禍」しかり、「ウクライナの戦争」しかり(21 世紀の現在、このような戦争があると誰が思ったでしょうか。)、そして「トルコ・シリアの大震災」しかり。

さて、3 年前の入学試験の面接でのことです。「これまでの人生で最も印象に残ったことは何ですか」と受験生から逆に質問されたことがあります。(何か質問はありますかと聞いた時のことです。)それは「ここ数十年の時代の変化のスピードかな。例えば情報通信システムの進展。」(そのように答えたと思います)

実際、ここ数十年の情報通信システムの変化には目を見張るものがあります。第 1 世代(1980 年)の携帯電話から始まり、第 2 世代のメール、第 3 世代の情報検索、第 4 世代の動画やゲームまで。10 年ごとに情報環境は大きく進化し、私たちの生活は大きく変わりました。現在私たちは、スマホを片手に何気なく、街中や校内で、電話をし、メールを遣り取りし、情報を検索しています。動画やゲームを楽しんでいます。ただ、それはごく最近のことで、「情報化社会」がもたらした日常なのです。

そして、「コロナパンデミック」が発生した 2020 年から、私たちの社会は「情報化社会」の次の段階、いわば仮想空間と現実空間が融合した「AI(人工知能)の社会」(Society5.0:5.0 社会)に足を踏み入れたといわれています。そこでは、スーパーコンピュータ、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)を鍵(キーワード)として様々な予測がなされています。自動運転車、産業用ロボットによる無人工場、AI による高度な医療診断や医療ロボットの活躍等、様々な「近未来」が描かれています。

そうした「近未来」にワクワクする人もいるでしょう。不安を感じずる人もいるかもしれません。しかし、私たちにとって最も大切なことについては(未来を)「描く」ことはできません。私たちが、どのような人生を送ることになるのか、予測できないからです。私たちの未来に何がまちうけているのか、それは誰にもわかりません。(人間関係・生き方・心の在り方など。)特に自分自身のことが一番わからないものです。

ただ一つ言えることは、これから先の長い道のりの中で、諸君には様々な出会いがあるということです。(出会いは偶然かもしれない。)しかし、その偶然かもしれない出会いを(必然)、つまり(君たちの人生にとって意味のある)出会いに変えるのは君たち自身だということです。(もちろん、AI ではありません)。出会いは、君たち自身が創り上げるものであり、(人との出会い、社会との出会い、自然との出会い、世界との出会い)そうした様々な出会いの結び目のようにして皆さんの(未来)が形作られていくのです。

そしてそのとき、心に留めておいてほしいことは成徳の「徳」ということです。すなわち

- ① 社会の一員であることの自覚。
- ② おおらかな気持ちで、ささやかでも他者のために役立つ心がけを持つこと。
- ③ 自分なりの目標を持つこと。(目標のない人生は虚しく感じられるものです。)

インターネットを通して、君たちの出会う世界は、遥かに広大になっています。社会は、加速度的に大きく変化しています。私たちはそうした変化の真っ只中にいます。時代の変化を恐れることなく、多少の「楽観主義」と「常に学ぶ姿勢」をもって、そして勇気をもって一歩前に踏み出してください。

そして、もし今後、困難に出会うようなときは、友達顔を思い出してください。親しい友人、あるいは偶々教室で隣の席になった友の顔を思い浮かべてください。そうした仲間もこの社会のどこかで、時には凹んだりしながらも、なんとか頑張っているのです。ここにいる君たち一人ひとりの努力と頑張りが私たちの社会を豊かで住みやすいものになっています。このことは忘れないでください。

君たちが、自分自身に対する信頼、そして自分なりの目標をもって、それぞれに幸せな人生を送ることを心から祈念して式辞と致します。

おめでとう。

令和5年3月17日

東京成徳大学学長 吉田 富二雄